

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	様々な障がいを持つ利用者がそれぞれ活躍することの出来る場を用意している
	内容	事業所には、聴覚・身体・知的障害・高次脳機能障害など様々な障がいを抱える利用者が通っている。その中で職員はそれぞれの利用者が活躍することのできる場を用意している。中でも「CafeGalleryさえずり」では、聴覚障がいを持つ利用者でも接客できるよう、客が自分で記入する注文票を用意し、利用者が胸元に「耳が聞こえません」というバッジをつけることでスムーズに接客をすることができるようにした。また、絵手紙の講座は、それぞれの持ち味を發揮でき、完成した作品を「さえずり」に展示することで利用者の自信にもつながっている。
2	タイトル	昨年実施したクリスマスの飾りつけを利用者と一緒に企画するなど、利用者参加の運営を実践している
	内容	事業所の決まりごとや変更事項は、全体会議で利用者にはかり承認する形を取るようになっている。事業所の理念を具体化したケースでは、利用者参加の全体会議で「考え方」を提示し、利用者アンケートで意見を求め、分かり易いスローガンを作成した。昨年末実施したクリスマス会は、職員からの働きかけで、利用者職員で飾り付け委員会を結成し、一緒になって飾りつけを企画するなど、利用者の意向を反映した楽しいクリスマス会になった。その他にも、会報「めじろだより」の題字を利用者から募集するなど利用者参加の事業所運営を実践している。
3	タイトル	市の福祉作業所等連絡会に事務局として参加し、地域社会への福祉の理解促進・啓蒙活動を積極的に進めている
	内容	事業所が加盟する市の福祉作業所等連絡会では施設長が事務局を担い、福祉法人のネットワーク作りやイベントの運営、作業の共同受注の枠組み作りの取り組みなどを、他機関と連携し積極的に実施している。また調布市主催の福祉まつりでは、利用者が事業所で作った人気のフランクフルトや「CafeGalleryさえずり」のホットサンドを販売し、昼過ぎには完売するなど大変盛況であった。また昨年は連絡会のイベントとして一般市民向けに自閉症の理解を促す映画会に職員を派遣するなど、地域社会への福祉の理解促進・啓蒙活動に力を入れている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	生産活動に専門性の高い職員だけでなく、福祉専門職を含むバランス良い人材登用が望まれる
	内容	事業所立上げ当初は、採用は関係者の紹介が中心で家族的な職員体制を特徴としてきたが、事業所の規模が拡大するに連れ採用は公募になり、生産活動に専門性の高い職員を優先的に採用するようになってきている。カフェ事業ではパティシエ経験者を採用し、ケーキやクッキーのテイクアウト事業を目指すなど生産活動の効率をあげ、工賃アップに繋がるよう計画している。一方で高次脳機能障害の利用者が多くなり、職員からは一部の職員に専門的な支援業務が偏るという声があり、今後は福祉の専門資格を持つ職員を増員するなどバランスの良い人材登用が望まれる。
2	タイトル	職員全体の業務標準化や業務環境の変化に対応するため作業の定期的な点検・見直しの実施が望まれる
	内容	これまで経験のない業務を担当する時や新人職員が業務にあたる時などに備え、職員全体の業務標準化や環境変化に合わせて、作業の定期的な点検・見直しの実施が望まれる。例えば、日々の業務の中で作業工程上ミスが発生しやすい項目のチェックリストを作成・更新することや、作業手順を職員間で定期的に振り返り・見直しをするタイミングを決めることも業務水準維持に繋がる取り組みである。現在、業務全般においてマニュアルの整備を進めており、今回の整備を機会に、このようなチェック項目や手順見直しのタイミングを規定していくことを期待したい。
3	タイトル	利用者が生活環境の変化の中でも、安定した地域生活を送ることができる取り組みに期待したい
	内容	事業所は、利用者が地域の一人として生活することができるよう、様々な地域のイベントに参加したり、「CafeGalleryさえずり」を開き、地域住民との交流を広げている。しかしながら、家族や計画相談員などとの交流については、事業所からの積極的な働きかけには至っていない。今後、利用者の高齢化に伴い、家族の高齢化も予想される。利用者を取り巻く生活環境の変化が予想される中で、地域で安定した生活を継続していくためにも、家族や関係機関との連携を深めていく取り組みをおこない、継続していくことに期待したい。